

里山コモンズクラブ通信

2015 春号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
自然を
守り育てる会

<http://www.ina-mina.com>

●お問い合わせ先

発行・責任者

090-6658-7611(梁川)

編集・責任者

090-3579-4537(坂本)

里山コモンズクラブ通信「みなみやま」はNPO法人南山の自然を守り育てる会の活動案内です。

「南山・秋の草木の実を観察する会」



去る10月19日の日曜日、南山にて「秋の木の実」などを観る自然観察会が行われた。今回はあまり長い期間募集もできず、広報誌の掲載程度であったため参加者は多くは無いのではないかとあまり期待していなかった。

そんな予想を裏切って30名以上の多くの参加者が集まってくれた。今回の散策ルートは、まず武蔵野線トンネル脇から南山の林内に入ると急坂を上り、切り通しの道へ。春に筍掘りをした竹林の脇を通り、左手の畑の向こうに開発区域を見ながらゴルフ場寄りの尾根へ上る。そこから右に折れて駒沢女子学園の見える見晴らしの良い尾根道へ出た。その途中で「南ちゃんの会」の管理する場所で休憩。下草刈りなどの作業と、良く手入れされた林も見学した。その後妙見寺まで歩き、蛇より祭に使われた「茅でよった大蛇」を見ながら、階段を下った後解散となった。

散策の途中で観察できたものとしては、まず虫としてはオカメコオロギにジョロウグモ、ザトウムシなど。そして花々としては紅白のミズヒキ、ピンクのタイアザミ、黄色いキンミズヒキやコセンダングサ、そして地味なヤツデなどの草本や低木、そして栽培のシソの白花と帰化植物であるセイタカアワダチソウの黄色。更に実や種として、服に引っかかるイノコヅチ、黒く丸いイヌホオズキ、真っ赤なノイバラ、平たい豆のクズ、赤く長丸いカラスウリ、纏(まとい)の先の三面型の様なオニドコロ、潰すと臭いヘクソカズラ、黒く小さいウコギ、鮮やかな赤なガマズミ等、様々な色と形を付けた草木。そして高木であるクヌギ、コナラ、シラカシなどの団栗(ドングリ)も見られた。

今回生物の解説役として参加したが、種名誤認や訂正もあり、拙い解説だったと思う。しかしそれにもかかわらず、参加者は程よく上り下りある丘陵の雑木林を歩くことに満足してくれたようで良かった。晴天にも恵まれ、虫好きな子も虫かごを何度も開け閉めして、なかなかの『収穫』を喜んでいたようだった。



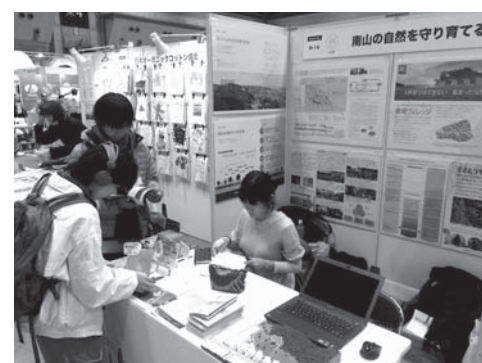
観察会に地元で活躍のミュージシャン龍井 一磨さんが稲城音楽PRもかねて参加しました。観察会終了後、妙見尊の境内で歌を披露し、素敵なサプライズに参加者のみなさんも喜んでくれました。

こうした観察会で思い出すのは、以前観察会で歩いた林のほとんどが、現在工事に掛かり削られてしまったり、入れない場所となっている事。その為、今回歩いたのは計画区域外の開発を免れた区域が殆どだ。今後、計画区域内の自然公園である奥畑公園を観察したり、さらには「環境配慮住宅」に里山環境を再生して、こうした取り組みを行う事は出来ないだろうか。そんな事も想像したくなる、良い散策会であった。(桜井)

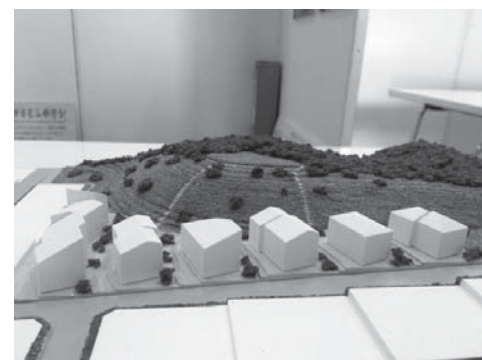
エコプロダクツ2014に初出展

2014年12月11日~13日

今回が初参加ですが、エコプロダクツ展は、16回目の開催ということで、エコ関係の様々な商品が展示されていて、3日間で15万人もの人が来場予定という本格的な催しです。興味深かったのは、NPOや市民活動、行政、大学などのブースも数多くあり、本田やトヨタ、新日鉄などの一流の民間企業だけではなく、非営利組織の活動の紹介がされていることです。日本でも様々な市民活動が本格的に展開される時代になったようです。南山の自然を守り育てる会のブースにもエコ関連の活動に関心を持つ様々な人が訪れてくれ、何人もの人に里山コモンズのコーポラティブハウス事業の内容について説明をしました。南山の自然を紹介する本や出版物が何冊も売れて、来場者の熱心さに驚かされました。全体の展示は、東1~6ホールの広い範囲で行われて、もう一人の説明者に留守番をお願いして、会場を一通り見学すると2時間以上は要しました。これだけの多くの集客を流れ作業のように上手にさばけるのは、素晴らしい運営技術です。午後6時に終了して、大勢の人が一斉に帰宅の途の付きましたが、りんかい線の国際展示場駅はいつも簡単にこの大量の人々を処理して、電車は混雑も遅れもなく、運転がされていました。(海老塚)



小さなブースですが壁いっぱいにパネルを展示し、スケール模型を新しく製作してPRしました。



コラム ☆ 南山のまちづくりの近況

1年前の春に「一般社団法人エリアマ ネジメント南山」(以下エリマネ)が地権者有志によって設立された。これはお仕着せのまちづくりではなく、自分たちの街は自分たちで守り育てていく。こうした街づくりを推進していく団体である。南山の自然を守り育てる会(以下育てる会)は団体会員としてエリマネに参加している。今年の1月17日には「おいでよ!南山 「未来の奥畑谷戸公園を考えよう」と題してプラウドマンションギャラリ前でイベントが開催された。主に建設予定のコミュニティ施設の説明やワークショップが中心で、その施設の壁の一部を伝統工法の土塗壁にしようと、壁の下地となる竹小舞用の竹割体験なども行われた。



竹小舞用の真竹を、竹割器で一気に割る。まさに竹を割った様な爽快感を体験できるが本数が増えれば辛い作業に変わる。

そして4月5日は南山小学校の内覧会が行われた。小学校は鉄筋ながら中に入ってみると木材がふんだんに採用されて居心地良い空間作りになっている。南山小に入学した子どもたちは新1年生が12人、2年生3人、4年生2人、5年生1人の計18人と驚く程少人数だが、プラウドが完成し来年には人数が倍以上になるであろう。

また校庭に隣接している公営稲城・府中メモリアルパークも完成に近づいているようだった。開校に伴い妙法寺下までの行き止まりだが道路も開通した。8月には新しい市民の憩いの場になるコミュニティ施設の建設も始まる。この施設は自然を残したい市民と、新しく南山にやってくる人たちが憩う場になる予定である。



南山小学校のウッディなランチルーム。



南山小学校の校庭とひな壇状の稲城・府中メモリアルパーク。奥の奥畑谷戸公園の雑木林も見える。

これから整備される南山最大の奥畑谷戸公園もこれからエリマネが中心となってコンセプト作りから維持管理法まで考える公園作りが控えている。育てる会としては今後公園作りの参加が重要となっていくだろう。(坂本)

奥畑グレインジの現場

グレインジには昨年、4組を現地案内した、30代女性、子育て中の家族がメインで自然(緑)に囲まれて暮らしたい。畑やコミュニティに興味がある等の理由でグレインジに問い合わせ頂いた。しかし現地案内止まりで先に進まない。主な理由として予算的に4500万円(が高い・プロジェクト用地が造成中で将来の街のイメージが湧き難い・北斜面である・共有地が自然地形でなくなる・2戸1住宅に抵抗がある・濃密なコミュニティは気がすすまない。所有形態が未定。緑地の仕様や利用・管理方法。私有地の半公共空間化の是非。など課題が多く上がってきた。このよう



な課題は当然今まで議論してきた。また用地の工期が1年延長されるなど、さまざまなハードルがある。今年には南山小学校が4月に開校し実質的なプレ街開きとなった。プロジェクトも新たな局面を迎え、グレインジの進め方を今一度見直さなければならぬ。

(坂本)

“新会員の仲間募集”

里山保全活動やオオタカ、サンショウウオの希少種調査など、会員として一緒に活動しませんか?

場所:稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会
 入会申込先:NPO南山の自然を守り育てる会
 事務局:梁川(やながわ)携帯090-6658-7611
 メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事

提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか? 私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 坂本